

# 中期経営計画 2019 の実績について

## 1. 総括

「中期経営計画 2019（計画期間：平成 28 年度～令和元年度）」で掲げた具体的施策を着実に実施した結果、計画内容を概ね達成（36 施策のうち 30 施策達成）することができました。

水道施設の経年化や水需要の減少を踏まえ、公民連携手法による上ヶ原浄水場の再整備をはじめ、配水池の統廃合や配水管網再構築計画の策定など、最適な水道システムの再構築に取り組みました。また、水道施設の耐震化や近隣事業体との緊急時連絡管の整備など、多様な災害への備えに取り組みました。

さらに、全センターでの料金収納関連業務の包括委託など事業の効率化・最適化を図るとともに、遊休資産売却などの収入の確保により、経営基盤の強化に取り組みました。また、多様な媒体を活用した広報や、こうべアクアサポーターとの意見交換などを行うことで、水道事業に興味関心をもってもらえたとともに、本市水道事業が抱える課題を共有し、市民のみなさまとのコミュニケーションを推進しました。

## 2. 年次計画に数値目標を掲げている具体的施策の実績

	年次計画	計画(H28～R1)	実績
第 1 章	ポンプ設備のダウンサイジング	計 42 機	計 37 機
	電力使用量の削減	H31：5,636 万 kWh	5,276 万 kWh
	配水管網再構築計画の策定	計 20 か所	計 20 か所
	配水管の更新ペースアップ	H31：40km/年	R1：34.0km/年 発注延長 40.2km/年
第 2 章	配水池等の耐震化	H31 末：80.5%	R1 末：84.1%
	配水池根元の配水管更新	計 5 か所着手	計 7 か所着手
	送水施設のバックアップ率	H31 末：80%	R1 末：75%
	配水区域間連絡管等整備の検討	計 5 か所	計 5 か所の整備着手
	災害時臨時給水栓の整備	計 19 か所整備	計 28 か所整備
	貯水機能のある災害時給水拠点の再整備	計 9 か所	計 7 か所
第 3 章	土地の売却	計 12 か所	計 12 か所売却 売却益 1,216 百万円
	土地の新規貸付	計 5 か所	計 5 か所 (89 百万円/年)

※売却益は売却額から簿価を控除した額

## 3. 中期財政計画の実績

人口減少や節水型社会の進展に伴い給水収益が減少するとともに、水道施設の経年化による更新費用が増大する厳しい経営環境の中、今後の施設整備等に必要な資金を確保するためには 30 億円程度の純利益を確保することが必要となりますが、維持管理費の削減や資産の有効活用による収入の確保等に努めた結果、達成することができました。

(単位：億円)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
収益的収入	370	363	364	355
うち、給水収益	301	303	299	296
うち、長期前受金戻入	32	31	31	31
収益的支出	326	324	331	324
うち、受水費	112	111	109	110
うち、減価償却費	96	96	102	103
純利益	44	39	33	31

(参考1) 中期経営計画 2019 の主な具体的施策の実績

【第1章 水道システムの最適化】

施策	計画	実績
上ヶ原浄水場の再整備と受水量の最適化	<ul style="list-style-type: none"> <li>上ヶ原浄水場再整備の検討</li> <li>受水量軽減に向けた協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上ヶ原浄水場再整備の事業者決定</li> <li>阪神水道企業団の受水量減 (H29)</li> </ul>
自己水源の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>布引の水のPR・有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボトルドウォーターを配布・販売</li> <li>地ビール、濃縮コーヒー等への利用</li> </ul>
千苺貯水池流域の水資源涵養	<ul style="list-style-type: none"> <li>千苺貯水池における森林保全活動の取組み実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>養成講座修了生や水道局等の協働による保全活動の実施</li> </ul>
人口減少社会に対応した計画的な更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>水道施設の計画的な更新</li> <li>配水池の統廃合などダウンサイジングの段階的な実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アセットマネジメントによる投資計画の見直し</li> <li>配水池統廃合の方針策定・工事着手</li> </ul>
再生可能エネルギーの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイクロ水力発電の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>送水系統へのマイクロ水力発電導入</li> <li>減圧弁代替機器の実証実験の実施</li> </ul>
サポート体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>修繕窓口のPR強化</li> <li>修繕に対応できる業者の明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水道修繕受付センターのPR、消費生活センター等と連携した悪質業者の被害防止PR</li> <li>HPに修繕対応可能業者一覧を掲載</li> </ul>

【第2章 災害への備え】

施策	計画	実績
津波対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>水管橋の耐震診断</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水管橋の重要路線の抽出、詳細耐震診断、耐震補強の設計業務に着手</li> </ul>
バックアップ体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地送水施設の連絡、北神地区送水施設の再整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地送水施設の連絡、北神地区送水施設の再整備を推進</li> </ul>
緊急時連絡管の整備・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時連絡管の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5市1町12か所で緊急時連絡管の整備完了</li> </ul>
他都市との広域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>大都市や県内水道事業体と災害応援訓練を合同で実施</li> <li>受援体制を強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害応援訓練を毎年度実施、千葉県企業局と災害時相互救援に関する覚書を締結 (H31.1)</li> <li>「大規模災害時応援事業体用マニュアル」を策定し受援体制を強化</li> </ul>

【第3章 経営の持続】

施策	計画	実績
組織・運営体制の見直しの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務の集約や組織再編、委託化の推進による事業運営の効率化・最適化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>執行体制の見直しの推進や全5センターに包括委託を導入するなど委託化の推進</li> </ul>
新技術を活用した業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>新技術を活用した業務の効率化にむけた取組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業用水道におけるスマートメーターの共同研究</li> </ul>
受水費の負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>阪神水道企業団、兵庫県営水道からの受水費軽減に向けた検討・協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>阪神水道企業団の受水費負担軽減(負担水準引下げ・二部制導入 R2~)</li> <li>兵庫県営水道の単価値下げ (R2~)</li> </ul>
人材育成と技術の継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材の育成・確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修・OJTの実施、研修の拡充・見直し等による人材育成の推進</li> </ul>

【第4章 広報とコミュニケーションの充実・強化】

施策	計画	実績
多様な広報・水道サポーターとの協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>水道事業に興味関心をもっていたるためのイベントを実施</li> <li>多様な媒体を活用し、多様な機会での情報発信</li> <li>こうべアクアサポーター制度の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水道週間イベントや震災イベント等、幅広い世代を対象としたイベントの実施</li> <li>リーフレット、動画作成、企画の実施</li> <li>ワークショップを通じたこうべアクアサポーターへの課題の共有</li> </ul>

(参考2) 方針変更や外部要因により年次計画どおりに進捗していない具体的施策 (6 施策)

【第1章 水道システムの最適化】

施策	計画	実績	今後の対応
自己水源の有効活用	・自己水源休止後の奥平野浄水場のあり方を検討	・奥平野浄水場は他の基幹施設の更新期間中は、バックアップとして施設能力の維持が必要と判断し、休止後の検討は未実施	・最終的な奥平野浄水場のあり方は、中期経営計画2023の期間中(～R9)に方向性を検討する
	・災害時の給水継続に向けた浄水施設の検討	・六甲山上における災害時の給水継続について、小型の移動式浄水処理設備の導入を検討したが費用対効果が見込めないこと等から導入を見送り	・六甲山上において、北神地区送水施設再整備事業の進捗に伴い、R3より阪神水道系の水が送水可能となる
人口減少社会に対応した計画的な更新	・ポンプ設備のダウンサイジング実施(計42機)	H28～R1:計37機 ・入札不調、計画見直し等により一部が次年度以降に変更	・未着手のポンプ設備の実施時期をR2以降に変更し、順次実施する
	・新たな配水システムの導入検討(ポンプ加压方式併用の導入検討)	・ポンプ加压方式と減圧方式の長期的な経済比較を行った結果、初期投資及び電力経費の観点からポンプ加压方式は原則実施しない方針を決定	・減圧方式の採用にあたり、配水減圧弁の維持管理業務の効率化と異常の早期検知を目的に、無線技術の導入を進める
配水管網再構築の推進	・更新の段階的なペースアップ(R1:40km/年)	R1年度:34.0Km [発注延長40.2km/年] ・入札不調により未達成	・入札不調対策、多様な発注方式および工事業務の効率化の取組みを進めていくことで、当面は少なくとも年間40kmの配水管の更新を着実に実施する

【第2章 災害への備え】

施策	計画	実績	今後の対応
バックアップ体制の強化	・市街地送水施設連絡管整備(H30に工事着手)	・断層横断の調査・対策の検討が必要となり工事着手がR2に遅延	・R7の完成にむけて工事を継続して実施
	・送水施設のバックアップ率(R1:80%)	R1:75% ・送水施設の整備計画の見直しに伴い、当初予定していたバックアップ施設の整備時期を後年度に変更した ・また、北神地区において、新設送水管が通る橋梁工事の着手が遅延したことにより、送水の2系統化の開始が遅延	・中期経営計画2023において、送水能力が大きい方のトンネルについて、内部調査を行った上で更生に着手する ・R2中の橋梁工事の完了に伴い、R3より送水の2系統化を開始予定
市民とのリスクコミュニケーションの強化	・貯水機能のある災害時給水拠点の再整備(計9か所)	H28～R1:7か所 ・2か所において、道路管理者との協議に時間を要し次年度に延期	・R2中に1か所の再整備を完了 ・残り1か所についてはR3.6に完了予定

【第3章 経営の持続】

施策	計画	実績	今後の対応
バックアップ体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートメーターの共同研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周波数帯が制度化されていないため、限られたエリアでの試験的導入には至らず</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業用水道においては、通信機を計器盤に設置し、計器盤で計測している水量データをサーバーに送信してリアルタイムでモニタリングしスマート化を進めている</li> <li>上水道においては、コスト低減にむけて、他都市の実証実験やモデル事業の進捗について情報収集を行うとともに、見守りサービスの展開など新たな付加価値についても検討する</li> </ul>